

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	林業課木材振興室長 大國 敏彦	電話番号	0852-22-5156
----------	-----------------	------	--------------

事務事業の名称	循環型林業に向けた原木生産促進事業		
目的	(1) 対象	森林経営者（森林所有者、林業事業者）	
	(2) 意図	成熟して利用期を迎えたスギ・ヒノキ・マツを主伐することにより増産する。	
事業概要	積極的に主伐に取り組んでもらうため、原木運送経費に対して助成する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目録値		29.00	31.00	33.00	
式・定義	県内の木材産業（製材・チップ・合板等）が調達した原木量に対する県内産原木の供給量の割合	実績値	24.00	30.00	31.00	33.00		%
		達成率		103.40	100.00	100.00		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目録値	0.00	0.00				
式・定義	実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率	0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	88,000	114,300
うち一般財源 (千円)	88,000	114,300

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

林業事業者等は原木増産に積極的に取り組み、生産量が増加、自給率も徐々に上昇しており、目標を達成している。

	H23	H24	H25	H26
原木生産量 (千m3)	314	374	384	407
原木自給率 (%)	24	30	31	33

6. 成果があったこと（改善されたこと）

この事業の創設を契機に、森林所有者の伐採（主伐）意欲や主伐作業を実施する林業事業者の原木増産への意欲が徐々に高まりつつある。大口需要先の合板工場への計画的・安定的な原木供給に向けた取組も進みつつある。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
主伐に対する森林所有者の意欲は高まりつつあるものの、主伐後の伐採跡地への再植林・保育経費の負担への不安があるため、依然として伐採に踏み込めない状況が残っている。
- ②困っている状況が発生している「原因」
木材価格の低迷等により、十分な伐採収入が確保できない現場が多い。
- ③原因を解消するための「課題」
森林所有者等の伐採意欲・増産意欲を継続的に喚起していく必要があるほか、木材価格の大きな上昇が見込めないなかで、生産コストの縮減を進め、伐採収益を確保していく必要がある。
・原木の生産等のコスト縮減。
・再植林・育林コストの縮減。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

事業継続により原木運送経費について助成することで、引き続き森林所有者の伐採意欲や林業事業者の原木増産への意欲を喚起する。また、林業のサイクルの中でのトータル的な生産コスト低減への取組を継続・強化する。
・原木搬出用の森林作業道等の継続的整備、高性能林業機械の更なる導入等、生産基盤の継続的整備。
・現場の実情に応じた効率的な原木生産作業システムの導入や伐採～再植林に至る一貫した作業の導入等。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）